

教育目標 ◎自分で深く考える子 ◎思いやりをもって助け合う子 ◎がんばってやりとげる子



～一人一人が輝き、幸せな学校～

佐々木小

令和7年9月1日
新発田市立佐々木小学校
学校だより 第10号



授業改善に向けての研修の様子

成長の夏休み

夏休み、子どもたちは、たくさん遊び、たくさん学び、充実した毎日を通り、ぐんと成長したことでしょう。

教職員も、この期間を利用して、たくさんの研鑽を積みました。急加速で変化する社会の中、私たちも絶えずブラッシュアップしていかなければなりません。私たちもさらなる成長を目指します。

新たな知見を得て、全員が、よりよい授業づくり、学級づくり、学校づくりにやる気満々です。これから始まる2学期、よろしくお願いします！



ブラッシュアップ



校長 金平 弘之郎

2学期が始まりました。猛暑と豪雨で少し過ごしにくかった夏休みだったかもしれません。でも、子どもたちにとって、この長い夏休みの期間は、充実した日々であったことでしょう。自分で決めた計画に沿って1日を過ごし、規律ある毎日を送れたのではないのでしょうか。また、帰省や旅行等で遠方に出かけたり、様々な催しやスポーツ活動に参加したりと、貴重な体験をした子どもが多かったことでしょう。この夏休みを経て、心身共にひと回り成長した子どもたち、その姿を2学期からの学校生活の中でたくさん見せてくれるものと期待しています。

夏休み期間、このたよりの表紙で触れたように教職員で今後の教育活動に向けて、たくさんの研修を積みました。学校評価の結果から今後の教育活動・学校運営はどうしたらいいのか、より子どもたちの学力や学ぶ意欲を高めるにはどうしたらいいのか、これからの授業はどうあればいいのか、子どもたちの一人一人の人間関係をより良くするにはどうしたらいいのか、いじめや不登校の未然防止や対応をどうしたらいいのか等、様々な学校の抱える課題について熟議しました。すぐにできること、時間を掛けて熟成すること、まだまだ検討が必要なことなど様々ありますが、子どもたちのためにできることは全て早急に行っていく所存です。

さて、夏休みの研修をとおして見えてきたものは、やはり、私たち教職員がもっている旧来の価値観・授業観・子ども観からの脱却が必要だということです。特に私のような昭和の高度経済成長期に生まれ、今で言う画一的な教育を受けてきた者が変わっていかねばならないのでしょう。もちろん変えると言っても、不易流行を心得、かつての教育や子育ての大切な本質を尊重しながら、学校運営の在り方・学習指導の在り方・生徒指導の在り方等をブラッシュアップしていくのです。

私が夏休みに受けた研修で、私たち教師は、教師側の視点を子どもに押し付け過ぎ、子どもたちの主体性を萎縮させてしまっていると指摘を受けました。教師目線で子どもを授業が行いやすくなる姿にすることをよしとしてしまうと。確かに、先生の言うことをよく聞く子がいい子であり、そんな子を褒め、認めています。確かに大切なことですが、こればかり続けば、子どもたちは、学校では先生が望むことさえすればいい、先生に従っていることがベストと考え、自分で考え、判断することを放棄していってしまいます。先生に気に入られるよう振る舞うことが目的になってしまえば本末転倒です。例えば、参観日等でお子さんを見る際に、「今日は姿勢良く座っていた。」「今日は、私語もせずに黙って授業を受けていた。」「返事が大きな声だった。」「拳手の時、指先まで真っ直ぐに伸びていた。」などと見た目に着目しがちになりませんか。本当は、「やる気に満ちていた。」「元気いっぱいだった。」「頑張って自分の力で考えていた。」「自分の考えをもっていた。」「課題を解決するために様々な手段を用いていた。」「友達と協力していた。」など、そんな子どもの内から出てくる姿に着目し認めてあげられたらいいですね。

これからは、子どもたちが、課題に対して解決策を自分の力で選び、自分に合った学び方を決めていく、そんな力を育てていくことが大切になるのだと再確認させられました。

2学期は、子どもたちの成長を促すために「自己選択・自己決定」というキーワードで日々の教育活動を深めていくことを全職員で確認しました。2学期は、子どもたちの力が今よりぐんと伸びるよう教職員一同、全力で取り組みます。よろしくお願いいたします。